

洪水予測が可能な Water Visionの導入可能性は

問 水災害について、①避難指示を発令するタイミングや判断基準、避難指示等が伝わりにくい夜間における対応策は。②三十六時間先を見据えた洪水予測が可能なWater Visionの導入可能性は。

答 危機管理監／①国、県及び市が持つ情報を統合し、関係課と協議した上で避難指示の判断をしている。また、市民が安全に避難できるよう早めの判断を基本とし、可能な限り明るい時間帯に避難指示を発令する運用としているが、災害危険度が急激に高まった場合、夜間であっても

同報無線やSNS、防災アプリによる情報発信を行っている。また、自治会を通じて呼びかけや消防団による巡回広報など、複数の伝達手段を組み合わせて確実に情報が届くよう努めている。②長時間先の河川氾濫の時間帯や地域を早期に把握することにより、避難所の開設など事前の準備を計画的に進めることが可能になると考えている。観測予測や情報通信の技術進展が加速し、新たな技術の活用が広がっているため、国や民間事業者の技術動向等について調査研究を進めていく。

渡部 一二実



沼津市老人クラブ連合会 未加入クラブ等への補助の考えは

問 沼津市老人クラブ連合会加入クラブの維持・拡大に取り組みながら、公平性の観点から未加入クラブやその他団体への補助を検討する考えは。

答 市長／連合会に未加入ながら、自らの生きがいを高め健康づくりを進める活動や、ボランティアにより地域を豊かにする活動を行う自主的なクラブへの支援は重要である。その支援の在り方は、補助金以外にも各種講師の派遣やボランティア活動に必要な資材等の提供、仲間を募るための周知への協力など、様々な考えられ、できる限り積極的に協力し

ている。一方で、他自治体においては、連合会未加入クラブへの補助金を自治会への補助金に統合した例や、補助金の交付対象を広げた結果、連合会の縮小を早めてしまった例もあり、効果が見極められない状況にある。長い間、本市の老人クラブ活動を牽引してきた連合会とそれを構成するクラブの会員が年々縮小している状況を加速させる取組には慎重にならざるを得ないことから、引き続き国・県の動向と他自治体の状況を参考にしつつ、クラブ活動の活性化に取り組んでいく。

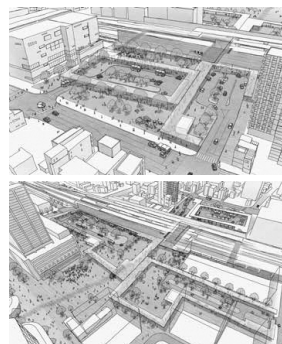
深田 昇



次世代モビリティを導入する考えは

問 鉄道高架後に次世代モビリティを導入する考えは。

答 沼津駅周辺整備部長／令和六年度に立ち上げた沼津駅舎・駅前広場等デザイン検討会議において、駅の南北・東西や駅周辺のまち、沼津港などの観光資源とのつながりを考慮するとともに、交通機能や広場機能、商業機能などの検討を行い、鉄道高架後のデザインイメージを示す沼津駅舎・駅前広場等デザイン基本計画の策定を進めており、この中で、路線バスの乗降場の集約化、民間施設・公共施設の立地や沼津駅と沼津港を



▲鉄道高架後のデザインイメージ
沼津駅北口（上）と南口（下）

結ぶ次世代モビリティの導入についても検討している。モビリティ分野は自動運転技術など飛躍的な技術革新が見込まれていることから、現時点においては、デザイン性に優れた一定程度の輸送力を持つモビリティを想定している。

高橋 達也



これまでの市政運営の総括は

問 市長の政治姿勢について、①市政二期目の自己評価と課題認識は。②今後の市政運営に対する考えは。

答 市長／①第五次沼津市総合計画に掲げる都市の将来像である、人・まち・自然が調和し、躍動するまちの実現に向けて、鉄道高架事業や新総合体育館の整備など様々な事業を計画的・総合的に取り組んできた。その結果、社会動態はプラスを維持するとともに、政策評価指数であるまちづくり指標も良化しているなど、着実な成果を上げることができた。課題は、人口減少が避けられない状況

況の中、都市の活力を維持していくために定住人口を確保することであり、本市が多くの方々には選ばれる自治体になるよう都市の魅力を顕在化し、発信していくことで住み続けたいと思えるまちづくりを進めていくことが必要であると認識している。②市全体で様々な事業を展開しており、歩みを止めることなくしっかりと前に進めていくことが大事である。再度市長を担えるならば、笑顔で生き生きと活動できる、誇り高い元気なまち沼津の実現に向け全力で取り組んでいく。

浅原 和美

